

鵜飼研究室～狙い、領域そしてアプローチ～

日本の起業活動率が世界的にみて低調であることが問題とされ、その克服が喫緊の課題となっている。本研究室では、起業家の視点と起業のマネジメントの視点から新事業創造あるいは新産業創造（New Venture Creation）のフレームワークと一緒に議論し、「イノベーション（革新）」の担い手である「アントレプレナー（起業家）」とその「アントレプレナリシップ（起業家活動）」を研究する。



イノベーションはいかなる領域でも発展に向けて欠かせない。イノベーションは「創造的破壊」をもたらし、そして、イノベーションは「新結合」から生まれる。往々にしてイノベーションは現在のパラダイムには満足しない「新人」が実現する。この新人をアントレプレナーと呼ぶ。

これはビジネスの世界に限ったことではなく、未来志向で現状を打破しなければならぬ現実にいる人と領域に当てはまる。よってイノベーションは、社会を構成するビジネス等の「私」セクター、行政等の「公」セクター、医療・福祉・SDGs・地域活性に係る非営利組織等の「共」セクターに共通するコンセプトである。各々イノベーションの担い手は、Business Entrepreneur（起業家）、Public Entrepreneur（公起業家）、Social Entrepreneur（社会起業家）、Civic Entrepreneur（市民起業家）と捉えられてきている。



ここ数年来、起業はマネジメントする対象であるとの研究成果が出始めた。イノベーションは初めから成功が保証されているわけではない。だからこそ、新しいことに挑戦する起業が欠かせず、試行錯誤で進む起業プロセスの分析が進んできた。起業のプロセスに焦点を当ててるのが「リーン・スタートアップ」や「コミュニティ・ビジネス発展段階」のアプローチ、起業家の思考及び行動様式に焦点を当ててるのが「アントレプレナ・モデル」や「エフェクチュエーション」のアプローチだ。まだまだ定まった評価が出ていない研究領域でもあり、研究者としても挑戦と開拓の精神が欠かせない。



かかる認識に基づき、本研究室の研究生は、自らのビジネスモデルとビジネスプランを立案しつつ起業プロセスを疑似体験するところから始める。続いて、自らの疑似体験と経験豊富な起業家へのインタビューから起業家のマインドセットとスキルセットを理解する。それらを踏まえて各々の研究領域を定め、先行研究レビュー、仮説構築、検証及び分析方法を検討し、価値あるファクトファインディングを目指し挑戦する。ワクワク感を忘れず、対話とともに挑戦を楽しもう。

（文・鵜飼宏成）